



2017年12月17日発行

No.42

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：吉田 茂 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】 <https://www.waseda-honjo.jp>

長安への旅

学院長

吉田 茂



戒めとする句がある。『資治通鑑』の「経師は遇ひ易く、人師は遇ひ難し」という句だ。これは経典の内容（知識）を伝授することのできる者は多いが、人の行うべき道を含めて教え導くことのできる教師は少ない、という謂であろう。小生も例にもれず「人師」にはほど遠い教員である。

かの空海は唐に渡ることで、「人師」に出遭うことができた。長安青龍寺の恵果和尚（七四六〜八〇六）である。恵果は代宗、徳宗、順宗の三代の皇帝に師と仰がれる高僧で、彼は空海と出遭ってから半年で入滅したことから、命の灯火を点し尽くすように空海に対し熱心に密教の奥義を伝授した。それに対して謹直に学んだ空海は胎藏界と金剛界の両部を灌頂し、大日如来と結縁することができたのである。

十一月初旬、U社の計らいで西安を訪れることができた。空海の学びの庭であった青龍寺にも、阿倍仲麻呂記念碑のある興慶宮公園にも、楊貴妃がその「凝脂」を洗ったとされる華清池にも行くことはできなかったが、一大テーマパークの如き姿となった兵馬俑を見ることができた。日曜日とあつて多くの見学者があり、特に銅車馬の展示室には人が溢れていた。

兵馬俑は圧巻だったが、それにも増して今回の小旅行で一番印象的だったのは、U社が後援する中国人大学生による「日本語プレゼンテーションコンテスト」であった。午前の部は、四十分の日本語作文試験、午後は一人九分以内のプレゼンテーションである。その総合点で順位を付け、優秀者三名には日本への研修旅行のご褒美付きという企画である。

参加者たちの日本語を学び始めたきっかけは、「ドラえもん」や「ちびまる子ちゃん」などの日本のアニメが好きだからとか、日本の和食や文化に興味を持ったからとか、その理由はさまざまである

が、作文にしてもプレゼンテーションにしても非常にレベルが高い。大会後の懇親会で学生を指導された先生に伺うと、「十年前の学生はもつと勉強しました。語学を学ぶことが就職に繋がりが、人生の不幸を決定づけるという意識が強かったからです。中国も日本と同じで、豊かになったことで切迫感が薄らいだからでしょうが、最近の学生はそこまで勉強しません。」という言葉が返ってきた。ドキリとした。

また、西安交通大学附属中学を見学させてもらった。堂々とした高層の校舎の向こうには、四〇〇メートルの真っ赤なタータントラック、さらに先にはサッカーグラウンド、左手には6面のバスケットコートが見える。本学院も敷地面積では負けないが、この整備されたグラウンドを見せられると言葉が出ない。その後、校史館とも言うべき教室に案内された。その展示もすばらしく校史を通観できる仕掛けだ。その中で小生の目を引いたのは、世界各地にある交流協定校や進学先の大学群を示したボードだ。明らかにこの附属中学は海外に目が向いている。



遙か昔空海は真言密教を学ぶために入唐した。小生の研究対象である成尋阿闍梨（一〇八一〜一〇八二）も老齢の母を残して宋に渡った。それは日本にあっては学び得ないものを求めての旅であった。今の日本で学びの場は充足するか、学生や生徒に問うてみたい。なぜなら、今夏上海で学んだ豊田佐吉の「障子を開けてみよ。外は広いぞ」の言葉を思い出したからである。

個性咲く稲稜祭

稲稜祭実行委員長

3年 宮本

里緒菜



第一回の稲稜祭実行委員会が4月に開催されてから約半年間、夏休みも潰して時間をかけて幹部を中

心に、私たちは準備を進めてきました。今年の稲稜祭のスローガンは、「百花繚乱でした。私たちが稲稜祭実行委員会だけではなく、クラス企画、部活動の発表や展示において、稲稜祭で個性という花を咲かせるために、時間をかけて準備をしてきた学院生も沢山のいたのではないのでしょうか。今年は2日を通して雨天であったこともあり、不利な状況での発表・展示となつてしまつた団体も多かったと思います。屋台の場所、中央ステージ、グラウンドステージの位置、いつもとは変わった稲稜祭にはなりませんが、皆さんの努力や臨機応変な対応のお陰で大きな問題が起ることもなく、成功を収めることが出来た。共通棟体育館ステージでの紺碧の空はいかがでしたか？私は、青空の下で歌いたいという気持ちもありましたが、それ以上に高揚感・達成感と、体育館に響く歌と共に皆さんのパワが感じられ、雨の中の稲稜祭にしかない良い思い出を得られたと思います。同じように「雨の稲稜祭も悪くない」と感じた学院生が一人でも多くいたら幸いです。

今年から始めた試みは、今まで稲稜祭実行委員会と別に「クラス企画委員会」というクラス企画の責任者の役割を作つたことです。例年学院生の中でブラック企業とも言われつつある稲稜祭実行委員会、全て実行委員が負つていたことによつて生じるトラブルも沢山ありました。そこで、学院全体の稲稜祭運営も、クラス企画も両立して充実させていくにはどうすればよいかと悩んで考えた策でした。今年から突然作つた役職ですが、クラス企画委員たちは自分から動き、働きかけ、意見を出し、稲稜祭の一つの目玉であるクラス企画を成功させるために寝る間も惜しんで努めてくれました。今年初めてだったこともあり、システムの面で不十分な点も多かつたと思います。クラス企画委員会には感謝を申し上げるとともに、来年に向けて更に充実したクラス企画を作れるようにするために、後輩の皆さんを中心に今年の反省点を生かしつつ



このシステムを向上させてもらえたら嬉しいですね。

稲稜祭実行委員会も、WMOニュメントやステンドグラス、実行委員の腕章着用、パンフレットなど、過去の良かったところを生かすと同時に、食品クラスの増加、中夜祭、後夜祭のステージの新企画の考案、稲稜祭直前のバスダイヤの見直しなど、学院生の意見や反省、新しい試みを出せるだけ多く取り入れてきました。また、先ほども述べたように今年は直前まで天候が分らず、天気予報も不安定な中、屋台やステージ・スケジュールの移動など、度々大きな変更も発生しましたが、パトリオタードを中心に困難を乗り越えてきました。大変なことも沢山ありましたが、実行委員たちも幹部の期待に応え、団結し協力して働いてくれたお陰で幹部一同として、実行委員としても稲稜祭を充実して終えることが出来たのではないかと思います。学院生や来場者の方々の笑顔や感動の声は、私たちが実行委員にとって最高の宝物となりました。

最後に、皆さんは今年の稲稜祭はどんな稲稜祭になりましたか？皆さんの中でもそれぞれが稲稜祭に至るまで沢山のトラブルを乗り越えて、自分の理想の稲稜祭に近づけるように精一杯努力していったのだと思います。もし皆さんが何かプラスになることを少しでも稲稜祭で得られたとしたら、実行委員会が皆さんの活躍の助けに少しでもなつていたらと、これまでの喜びはありません。そして普段の努力を発揮できる、普段とは違う自分を発揮できる、そんな「百花繚乱のごとく個性を咲かせられる場である稲稜祭をこれからも継いでもらうことが私から後輩たちに向けての願い事です。

稲稜祭を開催するにあたって実行委員、クラス企画委員、展示発表を行った団体の責任者、生徒会の皆さんを始めとした学院生や、先生方、事務所の方々、保護者の方々など、協力してくださった全ての方々への感謝を改めて心より申し上げます。



Coffee Break



デジタル時代のアナログ世代の「読む」「書く」「見る」「聞く」。この作業をひたすら繰り返した。ひたすら継続した。知識を習得する唯一の方法である。と何の疑いもなく

ただ実行した。現代社会は「デジタル」の世界となった。「デジタル」は便利である。「デジタル」は分かりやすい。しかし、「人」のにおい、「自然」の匂いを私はあまり感じない。

大久保山は四季折々の顔を見せる。台風で野球場は水没し、大雪で白銀の世界となる。春は花粉が飛び交い、秋は見事な紅葉が遊歩道を演出する。「赤城おろし」が吹き荒れ、大久保山の木々の葉をすべてふるい落とし、松の木がへし折られる。季節は「連続」し、少しずつ変化する。学院生は大久保山で夏、汗を流し、冬、白い息をはいて活動する。自然を肌で感じる。完全に「アナログ」である。空調の整つた空間では味わつてこない「感覚」がある。「デジタル」では感じることのできない匂いがある。

本庄高等学院は「時間」「空間」を共通項として教育活動を行う場である。「人」の匂いと「自然」の匂いの充満する空間である。その空間に身を置いて仕事ができることは私にとって幸福なことである。「デジタル」は「時間」と「空間」を共通項としない。「時間差」を許容し、「空間」は必要としない。いつでも見る、聞ける、知ることができ、共有することができ、何が何でもやる必要はない。

アナログ世代の私は、「今」でできることを優先してしまふ。「今」やらなければ気が済まない。その時感じたことを大切に、して、人生の時間を過ごしてきた。「あの時やっておけば……」という後悔があるから。

「今」と「今」を実行し、それでも達成できないことを「後悔」する。今、何を感じ、何を欲し、どう判断し、何を実行するのか？「今」実行している「過程」が自分の出した「過去の結果」である。そこにあるのは言い訳のきかない、うそのない、「結果」である。自分自身が判断し、選択した行動の結果「が」ただ目の前にあるだけである。非連続の「デジタル」時代に、連続する「アナログ」が生きている。「今」実行する学院生の「人」を感じたいと私は思う。（オオタカ力の友人）

修学旅行を 振り返って

3年生は10月に台湾・韓国・中国の3コースに分かれて修学旅行へ行きました。

台湾旅行の思い出

3年A組 早川 麗

今回私が台湾を修学旅行先にと考えたのはごはんがおいしいという話を先輩方から聞いていたことや治安が良いと考えたことが一番でした。友達と行く初めての海外ということもあり私の中では期待と不安が同じくらいありました。

飛行機を降りてすぐ日本との違いを肌で感じました。それを一番思わせたのは気温で、降り立ったのは10月の中旬だったのかかわらず、日本の真夏をほうふつとさせる風が吹いていました。中世記念堂へ向かう途中に私はあまり見慣れないものに目を奪われていました。

その一つはバイクの多さです。台湾では交通の手段で最も多いのがバイクだということを知っていましたが実際に見ると壮観でした。走っているバイクの数もさることながら、道路の両側を覆うようにバイクが所狭しに停められていました。また空港でも道路の柵にも家にもあちらこちらに国旗があつたことです。後の交流で聞いていると台湾の方々が台湾を愛しているのがよく伝わってきました。その後向かった台北101はきれいにライトアップされ、地上509.2mからの風景は絶景と言わざるを得ないほどの夜景が広がっていました。

2日目は国立故宮博物院や国立自然史博物館、宝覺寺へと訪問しました。国立故宮博物院では白菜をはじめとした中国歴代王朝の皇帝たちが集めた歴史ある品々を展示していた。考えていたよりも白菜が小さかったことには驚きました。国立自然史博物館は体験ブースが数多く存在していました。日本と変わらない部分ももちろん存在していたが台湾独自の台湾の文化や歴史についての展示も数多く展示してあり興味をひかれました。宝覺寺には私たちの何倍もの大きさのある大仏が静かに

微笑んでいました。ガイドさんに台湾でのお寺の参拝のしかたを教えていただきまし。この日の夜は夜中にいき、グループにより散策が行われました。顔より大きいお肉やタピオカジュースなど台湾名物がたくさん並べられていて全部食べてみたい気持ちになりました。しかし臭豆腐というまたある意味で台湾名物もありました。私は怖くて手を付けられませんでした。3日目の台中私立台中第一高級中等学校との学校交流ではうまく会話できるかみな緊張していました。学校についたとたんだ道路の両端にたくさんの中一・中生が並び私たちを歓迎してくださりました。今年には台中一中との関係は10周年になります。私のバディについてくれた2人は男子だったので仲良くなれるか心配でしたが、授業とクラブ活動を体験し終わったころには最初の心配が嘘のように仲良くなることができました。

4日目、5日目の自由行動はこの旅行中でみんなが最も期待していた時間であつたのではないかと思います。大人の力を借りず、言語もあまり通じないところを散策するのは怖さもありましたがそれ以上に得るものもあつたと思います。

最終日だということもありみんな睡眠不足そうな顔をしていました。何人か具合が悪い人が出てしまったのは悲しかったですが、大きな病気にならなくて安心しました。この日の午前中に千と千尋の神隠しでおなじみの九分を散策して私たちの台湾旅行は終わりを告げました。お目当てだった台湾料理はもちろん楽しい時間は一瞬で過ぎてしまいましたがとても達成感や充実感があつた濃厚な時間でした。

今回の修学旅行は北朝鮮のこともあり実行できるかといわれていた高校生の一大イベントが無事に終われたことはひとえに先生、日本旅行の方々、ガイドをしてくださった方々のおかげだと思つています。今回このような貴重な期間をいただけたことで新しい友達、そして深い友情を培えたと思います。この貴重な経験を大人になつても忘れずいたいと心から思っています。



日本に最も近い国、韓国

3年A組 高橋 淳也

韓国は今回の修学旅行3コースの中で唯一戦時中（休戦中）の国でした。北朝鮮によるミサイル発射や核実験などによって開催が危ぶまれた韓国コースでしたが、予定通りの行程で無事に修学旅行を開催できたことをうれしく思います。

韓国は日本に最も近い国と言われますが、それでもやはり様々なところに日本との違いがあり、海外でしかできない様々な体験が多くできました。

一日目は羽田国際空港を出発し、ソウルタワーの見学をしました。タワーの展望台からソウルの街並みが一望でき、日本との地形的な違いやビル群の様相の違いなどを感じることができました。

二日目はDMZと都羅山駅、第三トンネルなど、朝鮮戦争にかかわる場所を訪れたあと、戦争博物館や歴史博物館を訪れた、最も修学旅行らしい日程でした。DMZに向かっていく途中には、国境に近づくとつれて多くなる銃を持った軍人に南北朝鮮の戦争が続いていることの緊張を感じました。国境付近の展望台から北朝鮮側を眺めると、有刺鉄線のついた柵の向こうに普段ニュースで見かけるケソン工業団地などが見つけられ、実際に存在しているのだと何か不思議な気持ちになりました。次に訪れた都羅山駅はソウルと北朝鮮の平壤を結ぶ鉄道駅であり、現在はほとんど電車が運行しておらず、閑散とした駅に戦争の寂しさを感じました。国境付近での最後の行程の第三トンネルは、朝鮮戦争時に北朝鮮側が、韓国に地下から攻め込むために掘ったトンネルで、ここでも戦争の爪痕が見られました。午後には訪れた博物館では韓国の歴史について学び、日本と韓国との関係なども学ぶことができました。

三日目は韓国の大統領府である青瓦台を見学したあと、現地の大学生と街歩きをして交流し、最後にペインターズヒールーという韓国のアートショーを鑑賞しました。街歩きでは、現地の大学生に韓国で流行している日本語や、日本の映画、音楽などの話を聞き、日本文化の意外な発展を知ることができました。最後に鑑賞したペインターズヒールーは日本のテレビなどにも出演したことのあるパフォーマーで、絵画を利用した言葉を使わないショーで、誕生日の生徒のためのサプライズなどもあり、とても楽しめました。



修学旅行北京コース2017

3年F組 柴田 亮輔

本年度の修学旅行北京コースには、男子38人、女子33人の合計71人が渡航した。学院生にとって、中国の広大さや長い歴史を感じ、学ぶとともに、友達と存分に楽しんだ6日間となった。皆で協力し合つて登った万里の長城、北京大学附属中学の生徒との貴重な交流と盛り上がりがあった余興、スリル満点で圧倒された雑技鑑賞など、本当に濃密な修学旅行だった。

私が特に印象に残っているのは、北大附中との交流である。まず、学院生はバディに連れられ、一緒に授業を受けた。私は中国の古典の授業を受けたが、全て中国語だったのが難しかった。中国の古い文字や発音は現在の日本語に似ているというところを知ることが出来た。セレモニーでは、日本の学校生活、折り紙、祭りについて発表し、日本の文化を発信することができた。同日の夜に行つた交歓夕食会では、お互いに余興を披露し合った。特に軽音ライブ、二人羽織、フタ芸は非常に盛り上がりがあった。また、全員で紺碧の空世界に「一だけの花の中国語バージョン」を歌った。会場が一体となり、本当に楽しい空間であつた。余興は大成功に終わり、前日にリハーサル、そしてバスの中で歌の練習をした甲斐もあつたように感じる。一日という短い時間であつたが、非常に有意義な交流となった。

また、万里の長城に登つたことも思い出深い。私たちが訪れたのは、居庸関長城女坂、古く農耕民族と遊牧民族の境界線としての役割を担っていたこともあり、やはり壮大であつた。「万里の長城」とはまさに読んだ字の如くであつた。登つても登つても、全然頂上にたどり着かなかつた。階段の一段一段の高さが違つたり、道が狭かつたりと、なかなかハードだった。しかし、友達と声を掛け合いながら協力して登りきれた達成感は大きいものだった。頂上から見た景色も非常に良かった。もちろん、最後まで登らなかつた学院生も中国随一の世界遺産を訪れたという充実感が満たされていたように思う。

天安門広場は予想以上に広大だった。修学旅行時は丁度5年に一度の中国共産党大会期間中であつたため、普段と比べて警備が厳重であつた。ある意味、普段とは異なる天安門広場の様子を見ることが出来た。景山公園から見た故宮は非常に美しく、数多くの建築物が綺麗に区画整備されて並んでいて、本当に素晴らしい眺望だった。故宮には中国の歴史を感じさせる様々な展示物があり、世界史で学んだ知識もアウトプット出来た。万里の長城しかり、北京

はインスタ映えに最適な場所が多く、私含め学院生は沢山写真を撮つて楽しんだ。中国の雑技団は迫力が物凄かった。民族的な芸能と聞いているので、穏やかなものを想像していたが、そうでは無かつた。派手で、本当にスリリングな演技に圧倒されっぱなしだった。他にも、中国のお茶文化を体験したり、都市計画展覧館にて北京の広さを改めて感じたり、北京ダックをはじめとする北京料理を味わつたりと、全てが本当に有意義だった。自由行動では、各班オリンピックセンター、北京動物園、頤和園などを訪れたり、ショッピングを楽しんだりした。最後の訪問地、天壇公園は故宮の4倍という広さに驚いた。ここで解団式を行い、皆で安全で楽しい修学旅行が送れたことを再確認した。また、北京大学に留学している早稲田大学の学生の方々にも留学についての参考になった。最終日の夜に大学生達とホテルのロビーでスムージーを飲みながら何人かで団らんしたものとても楽しかった。

修学旅行を通して、中国の長い歴史や広大さを感じるとともに、数多くのスローガンが街中に掲げられていることから分かる社会主義の国の感じを知ることが出来た。そして何より、北京コース全体で仲良く楽しく、良い雰囲気でも6日間を過ごせたことが素晴らしいと感じる。指名制で一言ずつ話して食事の号令をしたり、円卓の机を回して皆で話しながらご飯を食べたり、沢山の写真を撮つたり、ガイドさんにメッセージを書いて2号車の皆で歌を贈つたり、夜UNOやトランプをして「オール」したり……。どれも修学旅行ならではの独特な思い出で、本当に楽しかった。中国本土は基本的にSNSやネットが使えないこともあり、まさに「リア充出来た修学旅行になったように思う」。

最後に、お世話になったJTBの方々とガイドさん、引率いただいた福永先生、嘉来先生、川鶴先生、三崎先生、そして北京コースの皆さん、本当にありがとうございます。ごさいま

謝辞！



万里の長城 頂上にて



北大附中との交歓夕食会での余興

生徒達の活躍

◆陸上部

総体では上野さん(2年生)が全国インターハイに出場しました。個人種目での出場は素晴らしい成果です。多くの部員が山形まで応援に駆けつけました。また学総では関東に進めず悔しい結果に終わった男子マイルチームが大学生以上も参加する埼玉県選手権で入賞し、関東選手権に出場したこともチームにとって嬉しい結果でした。

夏の国体予選、秋の新人戦では、紙面の都合で載っていませんが、埼玉県北部予選で多くの選手が入賞しました。秋の高校駅伝では1年生～3年生入り混じって棒を繋ぎました。短距離、長距離共に2年生以下の選手達が実力と可能性を感じさせていました。

新人戦で関東大会への出場権を獲得できなかったこと、駅伝で例年以上の順位を獲れなかったことはチームとして悔しい結果でした。この結果を冬季の練習の糧として、短距離は来シーズン、長距離はこの後の奥むさし駅伝、埼玉県駅伝、県北駅伝に向けて更に取り組んでいきます。

- 学校総合体育大会埼玉県予選会
熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 5/12～15
男子400mH 7位 松久保 大智(3) 56秒60
男子4x100mR 8位 早大本庄(守谷 光永(2) 柳澤 亮(2) 難波 拓斗(2) 河原 啓志(3)) 43秒36
男子4x400mR 8位 早大本庄(河原 啓志(3) 難波 拓斗(2) 山崎 光(3) 大畑 遼恭(2)) 3分21秒98
女子走幅跳 3位 上野 真琴(2) 5m71(風-1.1m)
●関東高等学校陸上競技対校選手権大会兼全国高校総体予選会 千葉県総合スポーツセンター陸上競技場 6/18
女子走幅跳 6位 上野 真琴(2) 5m58(風+1.4m)
●埼玉県陸上競技選手権大会 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 6/25
男子4x400mR 7位 早大本庄(難波 拓斗(2) 大畑 遼恭(2) 河原 啓志(3) 関 宏太(3)) 3分18秒91
●関東陸上競技選手権大会 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 8/19
男子4x400mR 予選4組 4位 早大本庄(難波 拓斗(2) 大畑 遼恭(2) 河原 啓志(3) 関 宏太(3)) 3分22秒58
●全国高等学校総合体育大会 山形県総合運動公園陸上競技場 7/31
女子走幅跳 21位 上野 真琴(2) 5m44(風-1.0m)
●埼玉県高等学校陸上競技新人大会 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 9/28～30
男子4x400mR 7位 早大本庄(守谷 光永(2) 難波 拓斗(2) 平野 颯人(1) 大畑 遼恭(2)) 3分24秒57
男子棒高跳 6位 関 亮哉(1) 3m80
女子100mH 8位 足立 涼子(2) 15秒45(風+2.2m)
女子棒高跳 5位 橋 佑瑠(2) 3m10
●全国高等学校駅伝競走大会埼玉県予選会 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 11/1
男子 21位(78チーム中) 狩野 佑介(3) 関根 裕巳(1) 的場 寛人(3) 野口 文也(1) 松久保 大智(3) 小川 拓哉(2) 浅香 俊輝(2) 2時間20分17秒
女子 19位(47チーム中) 小林 香奈(1) 小川 いぶき(2) 新橋 葵(3) 小野寺このみ(1) 高原 歩希(3) 1時間21分12秒



◆硬式テニス部

新人戦地区予選(8月18日～20日、9月8日～10日、県大会出場分)
男子シングルス

5位 村松海斗、8位 原龍成、15位 市瀬賢太郎、17位 武樋一樹
男子ダブルス

4位 武樋・北村玲恩、10位 村松・竹原孝純

女子シングルス

優勝 森川優希、準優勝 室伏奏旅、3位 齊藤 ちひろ、

4位 山村明日美、5位 田中沙貴、6位 杉本沙弥

女子ダブルス

優勝 森川・室伏、2位 齊藤・田中、3位 山村・杉本

県大会(9月30日～10月1日)

男子シングルス ベスト32 村松、ベスト64 武樋

女子シングルス ベスト16 森川、ベスト32 齊藤・山村、

ベスト64 室伏・田中

女子ダブルス ベスト8 森川・室伏、ベスト16 齊藤・田中、

山村・杉本

新人戦団体戦

男子(9シード) 1回戦 5-0 大宮工業、2回戦

3-0 草加、3回戦 3-2

岩槻、4回戦 0-5 浦和

学院(S1鈴木0-6 山口、

D1村松・原0-6 真庭・

奥村、S2北村峻0-6 守谷、D2市瀬・武樋 1-6 吉田・佐藤、

S3北村玲 3-6 熊倉)

女子(4シード) 1回戦 5-0 明の星、2回戦 3-0 所沢北、

3回戦 3-0 越谷総技、4回戦 3-0 埼玉平成(S1森川 6-2

中川杏、D1山村・杉本 6-0 菅井・西村、S2齊藤 6-2 中川美、

D2田中・梶川 6-1 斉藤・鈴木、S3室伏 6-3 森井)

リーグ戦 1回戦 2-3 山村学園(S1森川 2-6 星野、D1山村・

梶川 0-6 佐久間・足立、S2齊藤 2-6 矢崎、D2田中・杉本 6-3

佐藤・宮坂、S3室伏 6-4 加藤)

リーグ戦 2回戦 0-5 浦和学院(S1森川 1-6 山崎、D1山村・

梶川 1-6 五十嵐・高西、S2齊藤 3-6 鈴木、D2田中・杉本



5-7 松沼・植木、S3室伏 1-6 龍前)
リーグ戦 3回戦 1-4 秀明英光(S1森川 1-6 大河原、D1山村・杉本 2-6 金丸・稲原、S2齊藤 2-6 浮田、D2田中・梶川 6-0 阿部・高橋、S3室伏 6-(5)-7 梅園)

関東私学大会(11月19日)

各県2校の私立高校が推薦され参加できる関東大会です。

北関東(埼玉・茨城・栃木・群馬)で2校が1月に神戸で開催

される全国私学大会の推薦権を得ます。特別ルールのため、

試合開始 5分まで同ポイントの試合は、次の1ポイント

で決着します。本庄学院はこのルールに泣かされました。

リーグ戦 1回戦(本庄学院は赤リーグ)

2-3 東洋大牛久(S1森川 6v(1)-7 齊藤奈(打ち切り)

D1山村・杉本 1-6 田崎・御園、S2齊藤 6-2 齊藤優、D2田中・

梶川 1-6 田中・濱田、S3室伏 6-0 奥野)

リーグ戦 2回戦 2-3 東海大相模(S1森川 6-(1)-7 大野、

D1山村・杉本 2-6 谷垣・東、S2齊藤 6-1 林、D2田中・梶川 1-6

野村・山内、S3室伏 6-1 川島)

リーグ戦 3回戦 1-4 東京学館浦安(S1森川 1-6 袖山、

D1山村・梶川 3-6 前田・外ノ岡、S2齊藤 2-6 織山、D2田中・

杉本 6-2 薬師寺・太田、S3室伏 4-6 中山)

7-8 位決定戦 4-1 麗澤(S1森川 6-0 飯村、D1山村・梶

川 4-6 小野口・佐藤、

S2齊藤 6-2 野村、D2

田中・杉本 6-1 松野・

太田、S3室伏 6-1 武

藤)



◆ソフトテニス部(男子)

インターハイ県予選(6月)

9日個人戦(狭山智光山公園)

宮下皓志(2 F)・小池隼弥(3 B)ペア ベスト16

田中尚史(3 D)・兼田崇裕(3 H)ペア 2回戦敗退

12日団体戦(熊谷さくら運動公園)ベスト 8

1回戦:③-① 浦和実業、2回戦:②-① 春日部東、3回戦:

1-② 武蔵越生

※団体戦の3回戦では接戦を展開、初の県ベスト4入りは

惜しくも逃しましたが、関東大会県予選に続く県ベスト8

となりました。

新人戦北部地区予選(9月)

15日個人戦(熊谷さくら) ベスト16(県大会出場権獲得) 2

ペア

宮下皓志(2 F)・楳田雄士(1 F)ペア、村上和樹(2 E)・

小林太一(2 D)ペア

20日団体戦(熊谷さくら)第4位 2回戦:②-① 秩父農工

科学、3回戦:②-① 熊谷工業、準決勝:0-② 松山、3位決定

戦:0-② 熊谷

新人戦県大会(11月)

11日男子個人戦(熊谷さくら) 宮下・楳田ペア ベスト 3 2、

村上・小林ペア 2回戦敗退

14日男子団体戦(狭山智光山)ベスト 8

1回戦:③-① 浦和南、2回戦:②-① 川口総合、

3回戦:0-② 埼玉平成

※団体戦では、第1シードの川口総合を破って県ベスト8

入りを果たし、2年連続で県インドア大会(12月25日、所沢

市民体育館)の出場権を得ました。

◆ソフトテニス部(女子)

インターハイ 県予選会 女子個人戦(6月10日)

辰巳穂乃実(3H)・飯塚優夏(2H)ペア ベスト 8:これにより、

辰巳・飯塚ペアは7月の全国高校総体ソフトテニス女子

個人戦(会場:会津総合運動公園)に出場しました。

また、年間での大会成績により、辰巳・飯塚ペアは埼玉県

高校ソフトテニスランキングで第7位となり、表彰を受けました。

◆硬式野球部

硬式野球部 県北8校野球リーグ 秋季トーナメント大会優勝(2年連続優勝)

2017年11月4日 1回戦 VS本庄第一 9対7(延長10

回) 本庄市民球場

2017年11月11日 準決勝 VS小川高校 9対5 早稲田

大学本庄高等学院野球場

2017年11月14日 決勝 VS本庄東高校 9対2 本庄市

民球場



硬式野球部 秋季県北大会 北部代表権獲得

2017年9月11日 1回戦 VS本庄第一高校

7対6 熊谷公園球場

2017年9月24日 代表決定戦 VS熊谷西高校 12対2(5

回 コード) 上尾市民球場

硬式野球部 秋季県大会 埼玉県ベスト16

2017年9月23日 2回戦 VS不動岡高校 9対0(5回コード)

上尾市民球場

2017年9月26日 3回戦 VS茨城高校 4対17(8回コード)

上尾市民球場

硬式野球部 秋季県北新人大会 準優勝

2017年8月18日 1回戦 VS熊谷工業高校 6対4

熊谷公園球場

2017年8月20日 2回戦 VS寄居城北高校 11対1(6回コ

ード) 上尾市民球場

2017年8月22日 準々決勝 VS上尾高校 9対1(7回コ

ード) 上尾市民球場

2017年8月24日 準決勝 VS進修館高校 10対0(5回コ

ード) 上尾市民球場

2017年8月25日 決勝 VS正智深谷高校 6対7 上尾市

民球場

硬式野球部 第99回全国高等学校野球選手権埼玉大会

3回戦敗退

2017年7月9日 VS 3校連合(児玉・児玉白楊・深谷) 12-0

(5回コード) 熊谷公園球場

2017年7月12日 VS 熊谷商業高校 4対4(延長15回引き分

け) 熊谷公園球場

2017年7月13日 VS 熊谷商業高校 8-4 (再試合)熊谷公園

球場

2017年7月16日 VS 西武台高校 1対5 浦和市営球場

◆ラグビー部

国体県大会北部地区予選

準決勝 5月3日(休)早大本庄31(19/12)-10(5/5)

本庄第一

決勝 5月6日(土)熊谷21(0/21)-19(19/0)早大本庄

国体県大会

1回戦 5月27日(土)川越17(10/7)-12(5-7)早大本庄

順位戦 6月3日(土)早大本庄 47(21/26)-7(0/7) 不動岡

第4回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会埼玉

県予選

1次トーナメント(Dブロック)6月17日(土)

・準決勝 早大本庄 34(12/22)-7(7/0) 三郷技術工業

・決勝 川越東43(26/17)-0(0/0)早大本庄

第97回全国高等学校ラグビーフットボール大会埼玉県予選

1回戦 9月9日(土)早大本庄28(21/7)-3(3/0)越谷南

2回戦 9月24日(日)正智深谷38(0/38)-5(0/5)早大本庄

今季の飯田組は昨季から大幅に戦術を変更し、結果として、や

って楽しい、観て楽しいラグビーであったと思います。春シーズ

ンに接戦をものにできなかったことが後を引き、最後の全国大会

予選はノーシードからの出発でした。2回戦で早くも強豪正

智と当たりましたが、選手たちは練習の成果を遺憾なく発揮し、

前半を0-0で折り返したものの、後半、走力・体力に勝る正智を

止め切ることができず、惜しくも敗れました。1年前から目標に

してきた花園出場は果たせませんでしたが、怪我でサポートに

まわった選手、マネージャーさんも含めて、ノーサイドの笛が鳴

るまで死力を尽くして戦った部員達を讃えたいと思います。3

年生諸君はこの経験を今後の人生の糧として下さい。12月下旬

からは高橋関君(2F)率いる新チームの新人戦が始まります。あ

らためて応援よろしくお願いします。ラグビーは本当に素晴ら

しいスポーツです!!ラグビー部はいつでも入部OKですので、少

しでも興味のある人は是非グラウンドへ見学に来て下さい!!

◆卓球部 (男子)

平成29年度 高体連北部支部卓球大会

9月26・27日(於:くまがやドーム体育館)

男子シングルス 優勝 池田祐将(2 A)

男子学校対抗 第3位

◆ワンダーフォーゲル部

日帰りで定例山行と夏山・秋山合宿を中心に、部員

14名で活動しています。定例山行と秋山合宿は、関東

山地での日帰りおよび1泊2日とし、夏山合宿は北アル

プスに縦走登山に出かけます。日帰りでも5～6時間は

歩く健脚コースを設定しています。夏山合宿は雨と強風

で、3日間ほとんど眺望のない過酷な山行でした。秋山

合宿 2日目は雲ひつとなしい快晴に恵まれ、後継上では氷

点下8度のなか(=写真)、富士山や南アルプスの山並みを

眺めながら、晩秋の紅葉を満喫できました。今年度

に実施した山行は、次の通りです。

4/30 新歓山行 登谷山 皇鈴山 5/29 定例1回

二子山・武川岳 6/11定例 2回 赤城山(鈴ヶ岳)

8/21～24 夏山合宿 北アルプス燕岳・大天井岳・

常念岳 9/23 定例3回 鼻曲山 11/5 定例4回

城峯山 11/18～19 秋山合宿 大菩薩嶺(大菩薩

峠登山口から丹波山温泉まで)

◆囲碁・将棋部

第41回全国高等学校総合文化祭将棋部門及び

第53回全国高等学校将棋選手権大会

(8月2日～4日:宮泉白石市)

団体戦優勝 3H6 江口 幸寛(大将)、2D8

尾崎 優介(副将)、2A12 笠原 大知(三将)

全国大会優勝は、本庄高等学校初めて、埼玉県

でもこの大会の男子優勝は初めてのこと。

全国高等学校将棋竜王戦埼玉県大会

(6月18日県民活動総合センター)

男子個人戦優勝 2A 12 笠原大知

8月16日～17日福岡県博多で行われた全国高

等学校将棋竜王戦大会に出場。

埼玉県高等学校将棋王位戦大会

(10月1日県民活動総合センター)

女子個人戦 優勝 2A1 阿南 美穂

男子個人戦 準優勝 2A12 笠原 大知

両名とも12月23日神奈川県横浜市内で行われる

関東地区高等学校文化連盟将棋大会に出場予定。

埼玉県高等学校将棋王将戦大会

(11月12日県民活動総合センター)

女子個人戦 優勝 2A1 阿南 美穂

1月25日～27日静岡県浜松市で行われる全国

高等学校文化連盟将棋新人大会に出場予定。

男子個人戦 3位 2D8 尾崎 優介

◆政治経済部

第17回全国学生対校円ダービー 26位

藤田夏月(2F)・小川龍希(2G)・飯沼愛乃(1F)

河野桜子(1F)・星谷和紀(1H)

6月末・7月末のドル/円レートを予想する、大

学生チームも参加の大会で上位30位に入り、日経

電子版に掲載されました。政治経済部チームの2

<